

悲

三年

画数 12
筆順 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋

かなしい 悲

成り立ち



鳥の「つばさ」の形をあらわした「非」と、心ぞうの形をあらわした「心」とを組み合わせて作った字です。つばさは左と右と「はんたい」がわについていて、「はんたい」にひらくので、「非」は「はんたいになる」といういみの字です。

だから、「悲」は、「ものごとが、心にのぞむところとはんたいになり、がっかりすること」をあらわしています。「かなしむ」こと。また、「かなしい」こと。

仏教では、「あわれみの心」といういみにつかいます。
【例】慈悲。

使い方

▽わが家がかつていた犬が死にました。悲しくて、涙が出そうになりました。裏庭に、お墓をつくって、お花をそえておきました。

▽わたしは悲しい話を聞くと、すぐ泣きたくなくなってしまう。このあいだも、悲しい物語を読んで泣いてしまいました。

熟語例

▽悲話(悲しい話。あわれな物語。「はなやかなでさごとのかげにも、たくさんの悲話がかくされている」などというふうには、つかいません。)

▽悲報(悲しい知らせ。「母が亡くなったという悲報が、郷里からとどいた」などというふうには、つかいません。)

▽悲劇(悲しい物語を劇にしたもの。また、そこから悲しいでき事のいみにもつかいます。「シェークスピア」の悲劇のなかでは『ハムレット』が一番好きです」などというふうには、つかいません。)

▽悲惨(悲しく惨めなこと。「戦争の悲惨な爪あと」などというふうには、つかいません。)

美

三年

画数 9
筆順 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈

うつくしい

成り立ち



「羊(3年4月)」という字と「大きい」といういみの「大」を組み合わせて作った字で、「大きな羊」といういみの字です。まるまるとこえた大きな羊は、見た目には「うつくしく」見え、食べると「おいしい」ので、「うつくしい」といういみや、「おいしい」といういみにつかわれます。
【例】美人、美食。

「りっぱ」とか「すぐれている」といういみにもつかわれます。
【例】美名、美德、美点、美点。

また、「ほめる」といういみにもつかわれます。
【例】賛美、嘆美。

使い方

▽こ。えんには、たくさんの美しい花がさいていました。

▽西の空はまっかで、夕やけ雲が美しくうかんでいました。

熟語例

▽美人(美しい女の人)

▽美食(おいしい食べもの。「美食家」といえば「おいしいものを食べるのがとくべつ好きな人」ということです。)

▽美名(りっぱな名前や、よいひょうばん。「美名にかくれて、こっそりわるいことをやっている人もいる」などというふうには、つかいません。)

▽美德(りっぱな徳。すぐれた人から。「かすかすの美德をかねそなえたりっぱな人」などというふうには、つかいません。)

▽美点(いいところ。長所。「この人の美点は、すなおさにあります」などというふうには、つかいません。)

▽賛美(ほめること。「賛美歌」といえば、とくに、キリスト教で、神さまやキリストをほめたたえる歌をいいます。)